

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

冒頭、このたび糸魚川市の石ヒスイが、新潟県の石に指定されましたこと、心よりお喜び申し上げます。この指定に向けて取り組まれました市長、県議はじめ関係者の皆様に、この場より感謝を申し上げます。

子供の頃より浜でヒスイを拾い、親しんでまいりましたが、このたびのことがうれしく、本日は、ヒスイの勾玉と丸型のピンバッジとヒスイのカフスをつけてまいりました。ヒスイのパワーを頂いて、本日も張り切って質問してまいります。よろしく願いいたします。

それでは、以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

質問1、一人一人に寄り添う医療で誰もが安心して暮らせるまちの実現に向けて、糸魚川市の地域医療の現状と課題について。

糸魚川市の地域医療は、著しい人口減少、少子化、高齢化で厳しい状況にあります。以下の点について伺います。

- (1) 基幹病院である糸魚川総合病院の医師、看護師、医療スタッフの確保と診療科確保について伺います。
- (2) 市内開業医の高齢化と医療の空白地への対応、中山間地域の高齢者への医療について伺います。
- (3) 新型コロナウイルスワクチン接種の状況について伺います。
- (4) 地域医療を守り、命を守るために市民自ら考え、行動することが大事です。その実践には行政のリード、サポートも欠かせません。糸魚川市の取組を伺います。
- (5) 医療人材の育成について伺います。

質問2、糸魚川市の地域資源を観光に生かすブラッシュアップは進んだか。NHK「ブラタモリ」以降の観光戦略等について。

- (1) NHK「ブラタモリ」で糸魚川の知名度が上がったと考えますが、その後の観光戦略の見直しは行われたか伺います。
- (2) NHK「ドキュメント72時間」、BS日本テレビ「妄想トレイン」など全国ネットの放送で糸魚川が紹介されました。その反応と今後の誘客への取組を伺います。
- (3) 動画配信と分かりやすい解説が誘客に結びつくと思います。テレビ放映と併せて、市民や観光客がつくるユーチューブの活用について伺います。
- (4) ヒスイが新潟県の石に指定されました。ただ、国の石に選定された後の状況を見ると、そのことが観光に生かされたかは疑問です。ヒスイをシンボルという言葉で説明していますが、意味が伝わっていない、あるいは今日的な価値を感じるものとなっていないのではないので

しょうか。検証と工夫が必要です。今後の対応を伺います。

(5) 大糸線や谷村美術館など、糸魚川ならではの地域資源を観光に生かすためのブラッシュアップやツアーの企画、演出、運営について伺います。

質問3、復興まちづくり計画の成果と被災地の現状、子育て支援施設建設の諸課題と被災者・住民への行政対応について。

(1) 復興まちづくり計画の目的と費やされた事業費及びその効果について伺います。また、市長は被災者や周辺住民からの様々な声を直接聞きましたか、伺います。

(2) 子育て支援施設計画の内容とスケジュールについて伺います。

(3) まち中心部に被災者・住民も高齢者も若い世代も住みやすい環境を整備し、利便性をつくることで「にぎわい」は生まれます。子育て支援施設計画は、そのことと合致していますか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、引き続き糸魚川総合病院の協力の下、富山大学などへ医師派遣の働きかけを強化し、医師・診療科の確保に努めてまいります。

2点目につきましては、糸魚川総合病院や医師会など、関係機関と連携し、僻地及び中山間地域の医療体制の維持・確保に努めてまいります。

3点目につきましては、12月4日現在、12歳以上の接種率は、2回目までが約93%、3回目目約84%、オミクロン株対応ワクチンは約33%となっております。

なお、乳幼児及び小児の接種率については非公開といたしております。

4点目につきましては、地域医療フォーラムなどを通じて、地域医療の現状や課題、地域ぐるみで医療を守る大切さなどをお伝えし、市民、医師会、行政が一体となって医療体制の維持に努めてまいります。

5点目につきましては、医師・医療技術者修学資金貸与事業に加え、高度医療技術者人材育成支援事業に取り組んでおります。

また、病院と連携し、医療従事者の確保と人材育成に努めております。

2番目の1点目につきましては、「ブラタモリ」など、放送による宣伝効果や知名度向上を好機と捉え、ジオパーク戦略プロジェクトにおいて、番組の内容を踏まえつつ情報発信と受入体制の整備、ジオツーリズム及び教育ツーリズムによる持続可能な地域振興を進めることといたしております。

2点目につきましては、テレビ放映による宣伝効果、特にヒスイと石が大きく人を呼び込むツールであることを再認識したことから、市内事業者及び関係団体と連携を図り、ヒスイや石にまつわるキャンペーン及びイベントなどのプロモーション活動に取り組んでまいります。

3点目につきましてはの当市のPRに活用できる動画については、公開者の了解を得てシェアする、あるいはデータをお借りして、活用するなどの対応を取っております。

4点目につきましては、まずは、県を象徴する石として、ヒスイの希少性や歴史的な価値を県民に知らせることが最優先と考え、引き続き県や関係者と連携し、ヒスイの巡回展、また講演会などを開催してまいりたいと考えております。

5点目につきましては、ヒスイの県の石指定を生かして観光客の満足度を高める季節の演出、大糸線など、地域資源を結びつけたツアーやイベントの企画に取り組んでまいります。

3点目の1点目につきましては、復興計画は迅速に復興まちづくりを推進するため策定したものであります。4年3月までに費やされた事業費は約46億円で、5年間で順調に推移したと評価しております。

計画の推進に当たっては、被災者説明会、区長会等の懇談会などにより、意向把握に努め、被災者の早期再建と被災地の復興に寄与してきたものと考えております。

2点目につきましては、年度内に施設整備の方針、機能、規模、概算費用等をまとめた基本計画を策定し、来年度は事業者の募集、選定を行いたいと考えております。

3点目につきましては、若者や子育て世代が利用、活動しやすい環境が増えることで、多様な世代が集い、まちの活性化やにぎわいにつながることを目指しております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、地域医療の現状と課題について、通告書に沿って2回目の質問をいたします。

なお、私は、昨年12月と今年6月の議会一般質問でも医療を取り上げております。議事録の市長答弁を引用しての質問もごございますので、よろしくお願いたします。

まず、（1）糸魚川総合病院の医師数と診療科について、また、この先の医師・診療科確保の見通しをどう分析していますか。詳細を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

まず、糸魚川総合病院の医師数であります。4月1日現在47名、それから医療スタッフ、看護師でございますけれども251名、それから医療技術者については82名ということで、承知をしております。

で、診療科目については、令和3年度と4年度については特に変わりはありません。

ただ、今、産婦人科のことが問題になっておりますけれども、これについてはまだまだ産科の部分は見通しが立っておらないということでもあります。

糸魚川総合病院においては、救急、それから透析、そして産婦人科については、政策的にも必要だということで、これまで何とか維持できるように努めてきておりましたが、産科については今申し上げたとおりであります。今後も引き続き、これら政策的な診療科目のほかにも重要な診療科目がありますので、そういうものについても引き続き確保できるよう努力していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございました。それで、慢性的に不足する看護師確保の見通し、これはどのように分析していますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院といろいろ人材の確保について相談をさせていただくわけですが、医師も大変ですけれども看護師の確保というのが、それに加えて大変だということでお伺いしております。今年の4月に新採用で配属になった看護師、たしか15名おられたと思います。

ただ、そのうち市外の方が大半、5名までおらなかったんだと思います。そんなような状況もあって、市外の方から糸魚川総合病院にお勤めいただくんですが、やはり地元へ帰りたいというような事情もあって転勤を希望されるということが、これまでも続いておりました。

そんなことから看護師については、今後も糸魚川総合病院と協力しながら確保の上、病棟の維持、診療科目の維持に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

医師、看護師をサポートするスタッフというものも大切ですよ。そのスタッフの数は足りてるのか。それから、その確保と見通しはどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今現在は、確保できて、病院の維持はできておるんだと思います。

ただ、将来的な見通しということになりますと、技術者の中でも例えば薬剤師、それから臨床検査技師、理学療法士といろいろあるわけですが、その技術者の職種によっては不足する職種も出てくるということで、正直、心配はしております。

ただ、厚生連全体の中で何とか人材をやり繰りしていただいておりますというふうに考えておりまし

て、ここら辺についても、今後も糸魚川総合病院、あるいは厚生連全体の中でどうなるのか、必要な対応については考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市民の安心と安全の第一は、身近な総合病院の医療体制がしっかりしていることです。これまでも救急対応など様々な支援をしていただき、医療体制を何とか確保してきましたが、働き方改革で大きく環境が変わり、限界を超えてしまう日が来ることを心配しています。今回、市内の出産ができなくなることを前提にした質問が複数ありましたが、子供を産むご本人はじめ、家族の負担や心配は大きなものです。

6月議会の私の質問に市長は、糸魚川で産んで育てられる環境は絶対必要という捉え方で、これからもしっかりと対応したい、課長からは、医師確保、看護師確保、総合病院の機能維持は、市長の公約の一丁目一番地、担当課の最大の課題として緊張感を持って取り組んでいる。ご理解いただきたいとご答弁がありました。

その後、具体的にどのような取組をされたのか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

議会のこの本会議場で説明をさせていただいたとおりであります。医師、それから看護師、その他の医療技術者につきましても、その方々の人材がなければ今の糸魚川総合病院における病棟、それから診療科目は維持できないわけでありますので、田原議員ご存じだと思いますが、医師については富山大学にお願いする。そして看護師については、できるだけ多くの市民の高校生から志して、そして地元へ定着していただくような、そんな取組についてはこれからも、すぐ効果が出るということではありませんけども、一つ一つ積み上げながら人材の確保に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ただ、今のままだと人口4万人の町、糸魚川市で、赤ちゃんが産めなくなるかもしれないんですよ。このことを市長はどうお考えですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今まで糸魚川の地で出産をされてきた経過があるわけでありまして、それがなくなるということは、非常に私といたしましても危機感を感じながら、この対応に取り組んでまいりました。

しかし、現状は非常に厳しいものがございます。私といたしましても情報収集、または要望に富山大学、または県庁、そして厚生連、いろいろありとあらゆるところに対応させていただきました。またそのほかにも、個々に対応させていただいております。

しかし、やはり医療制度も改革されて、診療、医の、この内容が変わってくる。そしてまた働き方改革など、非常に目まぐるしく制度が変化した中においては、地方の産科というのは非常に厳しい状況があります。そういう中での今、糸魚川総合病院の位置づけ、その診療科目が非常に危うくなっております。それに対して今、医師を確保する活動を行っておりますが、もしそれができなかったときのことを考えて、それに対してのまた市民の皆様方のご支援をどうしていけばいいのか、それを今考えて、対応しております。引き続き医師確保も行いながら、今行っているところでございますので、私といたしましても、何としても糸魚川で産科医を定着していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ご答弁いただきましたが、心配することは、診療科が減少することによる糸魚川総合病院への信頼感や必要性が揺らいでしまうことです。これを防いで基幹病院として存続していただくことが必要です。再度、市長の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

人口減少に加え、高齢化社会における地域医療、どうなるのかというのは非常に大きく様変わりしていく可能性がございます。まずは人口減少になっていくんだろうと思っとるわけでございまして、糸魚川市はご承知のとおり、厚生連病院、公的病院でございます。公立病院ではないわけがあります。そういったときに、経営的な状況の中で、いつ撤退するか分からない状況がございます。そうなったとき、地域医療は非常に、糸魚川の地域医療というのは厳しい環境になるわけでありまして、それをやはり県・国に対して、対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

医師の働き方改革や看護師不足への対応策として、6月の一般質問で、タスクシフト、タスクシェアが、その危機を乗り越える、利用現場の知恵・力となってくれることに期待できるとご提案させていただきました。市の保健師によるサポートも考えられます。課長からは、市でも何かお手伝

いできれば検討させていただくとのご答弁を頂きましたが、どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

タスクシフト、タスクシェア、これについては糸魚川総合病院において、働き方改革の取組というのは進められております。恐らく、具体的に私、確認したわけでないんですが、看護師の部門を薬剤師のほうで少し担う。またあるいは、お医者さんが今までやってきたものを看護師の方が担うというような取組については、これからも進められるというふうに認識しております。

先ほど言いました糸魚川総合病院における働き方改革の議論については、昨年度行っておりますけれども、そういうものに対して少し財政的な支援をさせていただいたところでもあります。糸魚川市の保健師が、実際に糸魚川総合病院で、医療現場で携わるというのは、そこまでは正直考えておりません。

ただ、今回のコロナウイルスのワクチン接種等で、こちらでもサポートできる部分については専門職としてのサポートというのは取り組んできたということでもあります。できるところは取り組んでまいりたいと、今後もそうしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、県内に厚生連の病院が15あるわけでありますが、中でも糸魚川は、やはり地域としっかりと連携を組んでおるところでございまして、経営的にも赤字・黒字は大きくブレておるところではございません。

ただ、しかし全体が、厚生連全体で厳しい環境になってくると糸魚川もその枠の中にいるわけですので、大きく対応しなくちゃいけない部分が出る可能性がございます。

しかし、我々はそういう全体的には対応できるわけではございませんが、糸魚川総合病院とはしっかりと連携を取っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

同じく厳しい医療の現状を市民からご理解いただく医療フォーラムで、直接市民に呼びかけ、意見を交わすことをご提案させていただきました。市民の皆さんに知っていただく、周知していただく機会は、設定させていただくとのご答弁を頂きましたが、どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市民の皆さんから地域医療の現状を理解していただくというのは、大変有意義だと思っております。その具体的な場としまして、年明けに地域医療フォーラムを考えております。

その中で、今、医療の中では医師の働き方改革でありますとか、地域医療構想が県全体で進められておりますが、その内容の周知というのも市民の皆さんから知っていただくことは大変だと思っておりますので、県と市と協力しながら、そんなテーマでできればなというふうに今考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

フォーラムの会場で、市民からの質疑は受けますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

具体的な進め方というのは、これから県だとか関係者と協議することになるわけですが、どういふふうな形、スタイルでやれば理解が深まるかというのが一番大事であって、その手法として、市民からの質問を受けることが有意義だということであれば、そういうことも考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

（2）市内開業医の高齢化と医療の空白地への対応について伺います。

5年先、10年先はどうなりますか。分析、その対応については、検討されましたか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市内には20の民間の開業医があります。しかし、高齢化が進んできておまして、新たな開業がない限り、この数というのは維持できないというふうに分析なり予想をさせていただいております。これらの課題については、糸魚川総合病院と、今後、開業医が減る中で、僻地あるいは中山間地域の医療をどういふふうにしていけばいいか、そういう課題については、この頃、共有するようになんたんなってきまして、しております。

糸魚川市における地域医療の在り方については、今後、医師会だとか糸魚川総合病院、それから保健所などと地域医療構想の糸魚川版的なそういう体制を取って、課題の共有からですけども議論を進めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

中山間地域の高齢者への医療については、昨年12月に訪問診療とオンライン診療の必要性について取り上げました。課長からは、糸魚川・上越地域が地域医療構想の重点支援地区に指定を受けたので、国なり県なりの大きな力を頂きながらICTを活用した医療に取り組む絶好のチャンスだ。医師会、関係機関と協議し、どういう形がいいのか検討していきたい。ただ、オンライン診療の実現には、いろんな行程があり、調査費も必要だが、遅れることなくこの問題については取り組んでいきたい。

市長からは、糸魚川の医療を考える会の30名を超える医師から、糸魚川の地域医療を論議していただくと答弁いただきました。

その後、どうなりましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

オンライン診療について、糸魚川市全体をカバーするような、そういう総合的なオンライン診療については、今なかなかシステムの問題だとか費用対効果の問題があって、今は難しいんだろうというふうに考えております。

ただ、遠隔診療については、コロナ禍ということもあって非接触の診療というのは、これからも必要であると認識しておりまして、とにかく今できるところから取り組みたいということで、能生国保診療所において、年明け頃から看護師がタブレットを持って患者さんのお宅を訪問し、そして診療する。これを検証しながら、他の診療所へ横展開できないか考えてみたいというふうに考えております。

それからもう一点、糸魚川の医療を考える会との議論、これについては、これまで会とは具体的に、特に行ってきたことはありませんけども、医師不足の現状、あるいは産科の問題等がありますので、個別の医師とは何か不足する医師をご紹介いただけないか、個別個別にお願いをしてきておるといのが現状であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

先ほど医療フォーラム、年明けにということで、ありがとうございます。よろしく申し上げます。

それで、（４）の地域医療を守り、命を守るために市民自ら考え、行動することを行政がリード、サポートする取組について、市で具体的に何か取り組んでいることがありますかというところが次の質問です。

実例を出せば、私が以前取り上げた病院へのお見舞いのルールを徹底しないと、院内感染によっ

て多くの命が危険になることの周知や、医療機関の悪評を言いふらす行いが評判を下げて経営に影響を及ぼし、身近な医療を失い、助かる命も助からなくなることへの危惧と、その対策についてなどがありました。

行政では、今何をしなければならないか、この点、市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

地域医療については、行政だけだとか病院だけで守れるものではなくて、市民を巻き込んだ地域ぐるみの取組が必要だということ、こういう認識でおります。このことについては、これまでも説明をさせていただいてきたところであります。

市民の役割としましては、かかりつけのお医者さんを持つだとか、救急車の正しい使い方をするだとか、それに加えて医療従事者への感謝の気持ちを持つ。そして、医療現場への配慮をするというようなことが大切なんです、なかなかまだ行き届かない部分もありますので、先ほどありましたような地域フォーラムのような場を活用しながら、市民の皆さんへ周知し、そして市民の実践につなげるよう努力したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

（5）医療人材の育成については、医療の世界に関わり、やがて糸魚川で働く動機が必要となってきます。

そこで、教育現場に普及しているタブレットを活用して、ICTがつくるフラットな関係の場において、市内の中学生、高校生にも、この医療のことを学んで、加わっていただきたいと私は考えます。地域の人と命と地域医療を守ることを学び、さらに実践へとステップアップしていく場ができればと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ご提案のありました、ICTだとかタブレットを利用してというのは、少し私、イメージがでなくて、いい答弁できてなくて恐縮なんですけども、現在、小中学生を対象にしながら、出前講座をやったり、高校生の1日病院体験等をやっております。

そして、医療を志していただくような取組です。実際、今度医療を志すようなことになりましたら、修学資金の貸与をしながら、連続した支援をしておるといふふうに考えております。

昨年度から、高校生から放課後、糸魚川総合病院へ寄っていただいて、医療現場の方と懇談をしていただいて、そして、医療職を目指していただくような、そんな取組もしてきております。どういふ取組がいいのか、今後も糸魚川総合病院とご相談をしながら、効果的な人材確保の取組につい

ては、行っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今、お話しにあったとおり、糸魚川総合病院の方が学校へ出向いて、生徒さんに医療の必要性を訴えかけることで、医療の道を目指す子供たちが増えたそうですね。これはありがたいことです。

それで、そういったことをわざわざ教室へ出向かなくてもタブレットの中で医療の現場を、言い方あれですが、のぞいてみる事ができれば、知識がつくし、また医療の道を目指す動機づけになるんじゃないかということなんです。

教育現場としてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

教育委員会としては、主に中学生に対しまして、今キャリアフェスティバルというものをやっております、そこに糸魚川総合病院からも出ていただいて、中学3年生が直接、医療の現場ではないですが、医療の現状、あるいは医療職の熱い気持ちを中学生に直接語りかけてもらうというふうな取組を行っております。

ご提案の医療の現場を見るというところでは、中学2年生で職場体験もやっておりますので、そういったところに糸魚川総合病院さんも参画していただいております。深い医療の現場に触れるということは、タブレットというのは有効だと思っておりますし、また、取組の仕方については、今後、教育委員会内で少し研究してみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございます。そんなにがちがちに考えなくても、今、糸魚川総合病院さんでもホームページだとか、あるいはフェイスブックで情報を出してますから、そういったものをタブレットで見れるようにという、そんな感じなんですね。

ただ、これはいろいろと教育委員会のほうのお考えもあるでしょうから、こちらのほうが積極的にそういった取組をお考えいただかなければ実現もしないということで伺いました。ありがとうございます。

今回、働き方改革からの医療体制崩壊の危機と身近な医療機関がなくなっていく心配、その現状の市民理解、医療ICTの活用と、これから医療確保のための人材育成について質問させていただきました。引き続き、糸魚川の地域医療確保を考え、訴えてまいります。よろしく願いいたします。

では、次の質問に移ります。

順序を変えまして、復興まちづくり計画の成果と被災地の現状、子育て支援施設建設の諸課題と被災者住民への行政対応について、2回目の質問をします。

私は、これまでの一般質問でもこのことを取り上げております。議事録の市長答弁を引用しての質問もございますので、よろしくお願いいたします。

11月の議会・委員会において、子育て支援施設計画の骨子案が示されております。以前に示された計画案とは内容が変わっておりますので、機能と面積の詳細を説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

3巡目の懇談を終わりました。今私どもの基本計画素案の段階でまとめております計画の機能、面積、概要について説明させていただきます。

まず、子育て支援センターといたしまして90平米程度を確保しまして、3歳児未満の乳幼児と保護者を対象に1日15組程度のご利用を想定しております。

また、一時預かり保育といたしまして60平米程度、事前予約制で1日5人当たりのご利用を想定しております。屋内遊戯スペース、プレールームというところで450平米の面積を確保いたしまして、小学生までのご利用ということで、なかなか家の中ではできないような遊び、大きめの遊具の設置ができないか。またその中には、絵本コーナーを設けていきたいというふうに、今の素案の段階では考えております。

続きまして、図書・学習スペースといたしまして280平米程度の面積を確保し、新聞、雑誌などに加えまして専門書3,000冊程度を配置いたしまして、スペース的には15名程度のそういう読書のできるようなスペース、あと10名程度が学習できるような、そういうスペースの確保ができないかというところで検討しております。

あとギャラリー、イベントスペースでございますが80平米程度で、地域の皆様や子育て世代の皆様のいろいろな活動、あと壁面を利用したギャラリー等の活用を考えております。

その他のスペースとして100平米なんですが、屋内遊戯場で遊ぶお子さんたちをお母さん、お父さんたちが見守るようなスペースですとか、飲食ができるようなスペースというところで、今、計画を、基本計画の素案として今まとめて、このような、委員会のほうでも提案させていただければというふうに今予定しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございました。施設の機能と目的が何となく分かってきましたが、大火で被災した場所の復興とにぎわいのあるまち、住み続けられるまちを建設していく、その拠点となるものかどうか

かを市民の皆さんや、まちづくり関係者の皆さんから理解していただくのは、これからの作業です。
以前の案より内容が変わった理由について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

古い代、かなり初期の段階では、まず、井上商会さんの跡地の部分、倉庫の跡地の部分で施設を、計画を考えておりましたが、皆様方から意見を聴く中で、屋内遊戯スペースの広さの確保がもっと必要だとか、お子様を連れていくのに駐車場が近くにもっとないと駄目だよということで、旧東北電力ビルを解体して使うというような考え方に変えてまいりました。

あと中身の機能につきましては、これは私どもの説明が下手だったこともあるんですが、子育て機能に加えまして、地域の多世代の交流ができるようなスペースとなるようにいろんなものを検討してまいりました。その中で、地元や会議所の皆様からご提案いただいた収益的な施設というのは、大変申し訳ないんですけど盛り込むことはできませんでしたが、ほかにも声を寄せていただいております図書スペースについては、かなり充実させてきたものだというふうに考えておりまして、それらが、皆様の意見を聴いて、私どもが基本計画の素案として、いろいろ変更を加えながらまとめてきた内容でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今後の市民周知と理解をどのように進めますか。スケジュールも併せてご説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、素案が固まり次第、議会の皆様、あと市民の皆様に説明に出向きまして、その際は、今ほど説明申しました施設の機能ですとか、その辺りについて説明いたしますが、やはり市民の中には、なぜあそこにあの施設が必要なんだという部分の声がいまだに、今も多く頂いておる、議会の皆様からも頂いておるような状況でございますので、その辺り、なぜそこに必要なんだというところを復興まちづくりの部分からとか、あと都市計画的に必要な施設なんだというようなところも丁寧に説明しながらいこうと思います。

まず、素案が固まり次第、説明に出向きまして、基本計画として、今年度中に基本計画を固めていきたいというふうに、今予定をしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

来年の3月までに基本計画をまとめるというふうに伺いましたが、R I Aの基本計画づくりの委託業務はいつまでですか。その間に市民や関係各所に説明して、ご理解を頂くことはできますか。また、議会にもお示ししていただき、内容をちゃんと調査することはできますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

R I Aの基本計画業務の受託業者ですが、彼らとの履行期限は、令和5年の2月28日です。そこまでに最後の成果品というところをまとめるのが、その期限になりますが、当然、今ほど私、説明しました市民への皆様の説明ですとか、議会の皆様の説明というのは、それぞれの時点で状況などもお伝えしながらご意見・ご指導いただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、特にR I Aの2月28日を皆様の説明の期限という関連づけまでは考えておらんところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

地域住民の方から、最近ヒアリングをしておりますので、頂いた疑問やご意見を基に伺います。

まず、計画案がいつ議会に付され、いつ工事が始まって、いつ完成するのか見えづらい。それがすうっと通ってしまうことは、問題があるので議会でしっかりチェックしてほしいというご意見に対して、設計と工事、完成までのスケジュールをご説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

最後までの見通しというのは、非常に不確定な要素がございますので、今現在の私どもが描いておる筋書、シナリオというところでご説明しますと、先ほどの基本計画の策定を年度内、あとそのすぐ直後から、今回、公民連携の手法を考えておりますので、それらの事業者のヒアリング募集、公募等をいたします。それを令和5年の秋くらいまでに何とか完了させて、その後、設計業務の発注をいたします。設計業務の発注は、かなり期間がかかるというふうに聞いておりますので、最終的に工事が始まるのがいつになるかというのは、なかなかちょっと見通せない状況でございます。当然その前に、計画の説明、事業の説明、工事の説明というところも間に挟んでいきますし、まず

は旧東北電力ビルの取壊しに当たりましては、いろいろ質問に出ておりましたアスベストの問題にもありますので、その辺は丁寧に進めていかなければいけません。最終的に、今のスケジュール感としましては、令和8年度内に皆様からお使いいただけるようなスケジュール感で、私どもは今仕事を進めております。これでもまだまだスピードを上げていかないと、そこに対して届かないような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

令和8年度内に完成させて、令和9年度から使用ができるという見通しがあるということによろしいですかね。確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

曖昧な言い方で申し訳ございません。令和8年度内に皆様からお使いいただけるような状況を目指してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

旧東北電力ビル解体が遅れて、来年秋の予定が延びると聞いたが、計画敷地は変更となるのか。もし計画敷地が変更となれば、民間としては何をしていたらよいかという新たな課題も出てくるとの質問を頂いています。この点、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

旧東北電力ビルの取壊しは、先ほどの説明の中の設計業務が終わりまして、工事の最初の段階になるかと思っておりますので、秋からというところは、当初からそういう予定にはございませんでした。なかなか皆様のほうに適切な情報が伝わらなくて、そういうような誤解なのか、どっかを聞き間違えられたのか、私どもの答え方が悪かったのかちょっと難しいところですが、この素案が固まりましたら、その辺のスケジュール感、今の段階の最新の状態というところで、また市民の皆様の方には周知を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

敷地に関しましては、今の旧井上商会さん倉庫の跡地と旧東北電力ビルの2つの区画で今考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

地域住民の方からのご意見から続けたいと思いますが、建設と運営に関するご意見です。

建設と運営をオガールのPFI・PPP方式を参考にして進められないのか。民間が造って、行政に貸し出すほうが、市民にとってよいのではないかということですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

以前も何かの機会でお答えしたような覚えもあるのですが、オガールは、まず計画段階から、誰もが訪れたいような施設ということを目指して、もう計画段階から公民連携というところを前面に打ち出して、市民ニーズ、行政ニーズをまとめ上げていったという経緯がございます。私どもは基本計画を、今私どものほうで基本計画を定めて、その後にそういうところを運営していただく業者の選定というところで、ちょっと順番的には若干違うのかもしれませんが、特に施設の規模とかは、オガールのほうとは大分違うのですが、運営のところは市民の皆様から本当に市役所が考える面白くないような造りじゃなくて、そういうところも民間のノウハウを取り入れるような進め方というのを考えていきたいと思います。その中で、オガールのああいふ事例というのは、非常に参考にすべき点が多いと思いますので、これからも勉強させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画案、工事について、議会でしっかりチェックしてほしいと、地域住民からの意見がありましたが、私は、これまでの質問の中で、計画から運営を運営事業者の都合で決めて一括発注するDBO方式は問題を含むと申しました。市民からの、設計から建設に対する疑念があり、そこがブラックボックス化していると市民から指摘を受けているわけです。その理由をあえて申し上げませんが、新聞紙上をにぎわす事態も関係していると思います。なので、計画、建設、運営で予算が執行されるときには、必ず議会のチェックを受けることが民意の反映には不可欠です。この点、市民から疑念を持たれない子育て支援の進め方について、市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までもそうでございますが、これからもやはり同じ考え方で市民に対しては開かれた行政運営の中で、事業につきましては、そういう形で市民の皆さんにはしっかりとお示ししながら入札に入っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

地域住民からのご意見です。

地域の人口の密度を上げる、住まう人を増やすことが、これからのテーマになる。暮らしやすい、過ごしやすい空間をどうつくるかとなれば、ここにコンビニも必要となるし、図書スペースや市民が集うスペースも必要となる。そのベクトルをしっかりと合わせておくべきだというご意見があります。

全く同感です。この点はいかがですか。確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、まちのにぎわいづくりやまちづくりの中においては、議員ご指摘の点は必要だと思っております。

しかし今、当該の場所で、全てそれが1か所であるということではないと思っております。市の全体の中で、そして中心市街地の中でそういったところを検討していけばいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

同じ住民の方よりですが、この施設は、米田市政の作品としてずっと残る。10年、20年先に、何でこんなものと言われないうようにとのご意見を頂いています。

市長は、被災者や周辺住民からの様々な声を直接聞きましたか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな場面で市民のお声を聴かせていただいております。

また、今ほどご指摘いただきましたが、被災者説明会、そういう中でいろいろと皆様のご意見をお聞かせいただいておりますし、集まったときだけではなくて、その前後においても、お話も聴かせていただいたりもいたしております。

そういう中で復興計画というものをつくらせていただいたわけでごさいます、ただ単に行政がぼんと示した復興計画ではございません。私は、被災者の皆様方や、そして周辺地域の皆様方や、またいろんな場面を使う中で復興計画をつくらせていただいて、進めてきたと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市長のご認識を伺いました。ありがとうございました。

以下、私がこれまで質問してきたことをおさらいして伺いますが、まず、子育て支援施設として上越や新井と類似のものを糸魚川で造っても来てくれるかという。これは誰もが抱く心配があります。

また、能生や青海の子育て支援センターの利用者が、糸魚川へ来るエビデンスは行政にありますかと指摘させていただきました。この機会に改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、子育て支援センターにつきましてですが、現在、市内に4か所ありまして、青海、能生に各1か所、糸魚川地域には2か所ございます。実際、糸魚川地域にある子育て支援センターにつきましては、数は把握はしておりませんが、青海地域の方が利用されてるといったような実態もございます。

また、今回、子育て支援施設の中には、子育て支援センターと併せて屋内遊戯施設も設ける形となります。市外の屋内遊戯施設、例えば上越市ですとオーレンプラザ、また、富山県の入善町のほうにも屋内遊戯施設があります。そちらのほうにも市内から行っておられる方がいらっしゃるというふうなことは、確認しております。

そういったことで、今回、駅北地域に屋内遊戯施設ができることによりまして、屋内遊戯施設の利用と併せて、子育ての相談、交流の場の機能でもあります子育て支援センターの利用といったものも、市内の中では他地域からの利用といったものも見込まれるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

課長には、以前もエビデンスと、それから合意形成必要ですよというお話をさせていただいて、今回の計画づくりは、やはり子供さんが中心ですから、あるいはお母さんの意見等は大事ですから、

そこをどう捉まえていくかということだと思うんですね。

私、上越のオーレンプラザに行きまして、様子を見て、聞いてまいりました。大きな遊具があって、それが人気なのでしょう。大勢の子供さん、お母さん来てまして、それで子供さんは、ママに呼びかけるんですよ、ママ見ててって。いい感じなんですよ。やはりあれだけの広さが必要だということも、そこで理解できましたんで、糸魚川の施設もこのぐらいの規模が必要なんだということは分かりますが、ただ、使われなかったときは悲惨ですよ。

なので、利用のエビデンス、ニーズ調査といいますか、商業施設じゃないからマーケティングとは言わないでしょうけど、そこら辺もう一回ちゃんとしたほうがよろしいのではないかと。この機会に意見として言わせていただきますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

利用の規模だとか、また運営の形態等にも関わってくるものだというふうに捉えております。こちらの施設、造って終わりということではなく、今後20年、30年先まで続いていく施設であります。今後、人口減少、また少子化というものは継続して続くものとは思いますが、皆さんから愛される、喜ばれる施設といったものになるよう、議員おっしゃいました利用者の部分の気持ちであるとか根拠、エビデンスといったものをしっかりつかんで計画のほうを改めて立てていきたいというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ここがにぎわいづくりに資する施設となるには、市民が集える、あるいは観光客が情報を取れるちゃんとした図書スペースが必要と要望し、今回の骨子案に明記していただき、ありがとうございます。

私は、以前より長野県の小布施町の例を紹介し、町なか図書館、「まちじゅう図書館」の取組を提案してまいりました。今回、糸魚川の本町通り、本の町と書いて本町の商店街に公共の図書のスペースができると、そこに人がやってくるので商店街のお店や本を愛してやまない市民のご協力を得て、公民連携のまちづくりが進むことを期待しています。本と人、人と人が、本でつながるまちづくりを進めていただけますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

現在も小規模ではありますけども、キターレですとかという形で町なかに本を配付させていただ

いて、周遊していただけるかどうかということを実験的にやっております。このような場所にまた造るということであれば、当然、ある意味広さもありますので、拠点的なものになるのかなというふうにも考えておりますが、議員おっしゃる考え方とおおり、少し広めのスペースでゆったりと人が集まって本を読んでもらえるというようなことも、私9月のときにご答弁をさせていただいたかと思いますが、そのような考え方で進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

雁木もできましたし、お店お店に置いてある本を訪ねて回るということで、町なかかいいいのにぎわいができるわけじゃないですか。それに本が役立つということなんですけど、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

おっしゃるように、雁木も大分できてまいりましたし、軒先のところも広がってまいりましたので、そういうことも含めて検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今の質問は、都市政策課のご答弁か、あるいは観光かなと思ったんですけど、ありがとうございます。

それで、次は、地域の人口の密度を上げる、住まう人を増やすということで、いま一度伺いたいと思います。

大火で一番被災したのが、大町区ということです。現在の大町区の人口、年代別化、高齢者の割合、それと独り暮らし世帯の数と今後の見通しなど、資料があれば担当課よりご説明を願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

4月1日現在、すみません、12月1日現在で、大町区の人口が366人でございます。高齢化率は4月1日現在でして53.3%、すみません、今の手持ちではそちらの数字ということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

独り暮らし世帯の率は分かりませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

申し訳ございません。今、手持ちでは承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

企画定住課で地域住民からの聞き取り調査をしてあると思います。密度を上げる、住まう人を増やすには、地域の利便性を高めることが必要ですが、住民の要望にはどのようなものがありましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

大町区の皆さんとは、都市政策課、それから福祉事務所、企画定住課が一緒になりまして、昨年の秋から今年度の初めまで、買物についての懇談をさせていただいたところでございます。区長さんはじめ、いろいろと細かいお話をお聞きしましたが、特に買物といったところに絞って、お話をお聞きした形で、今後、車の免許を返納して、買物に困るだろうといった危機感ですとか不安をお持ちの方、それから実際に車の免許がない方については、買物に不便を感じておられるといったところ、ただ、何とか工夫をして買物をしておられるよといったことなどが分かってきたというところでございました。今後につきましても、そういった状況を踏まえながら、買物について既存の商店ですとか、地区等の関係者との懇談を行いながら、不便の解消について取り組んでいくというふうに、大町区の地区の方とお話しをしているところでございます。

今年度の初め、地元の商店と懇談もさせていただいたというところで、一旦、地区のほうとお話のほう終わっておりますが、配達、お弁当注文といった店舗のサービスについてのやり取りもあったというふうに承知をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

先ほどご紹介した地域住民のご意見に、暮らしやすい、過ごしやすい空間をどうつくるか。となればコンビニも必要となるとありました。

私からは、ロードサイドのコンビニではなくて、近所の皆さんが生活に困らないように、町なかに住む便利さを享受できるようにミニコンビニ設置をと繰り返しご提案してきました。

大町区のアンケート調査でも、ミニコンビニの設置が一番でした。ミニコンビニは必要です。改めて要望しますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

地域の皆様から、非常に強い声として、私もじかにキターレ会場のときにも聞かせていただきました。それでも、やはり今回のこの施設の中にそういう収益施設を取り込む、そういう計画で進めるということとはできないというのが私どもの判断でして、他人任せというわけではないですが、やはり本町駅北に訪れていただく人が、まずそこで増やすというところが、収益事業の芽を、種を植えるということにつながっていくというふうに私どもは捉えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足して、お答えさせていただきますが、今、対象エリア、被災したエリアにつきましては、商店街でありますし、商店地区であります。そういう中で、行政が商行為を私はやるべきではないと思っております。やはり商行為は、商店街でございますので、商店街の皆様方のお考えの中でお取り組みいただければありがたいと思っております。要望はお聞きしておりますが、私は要望は要望としてお聞きしますが、商店街の皆様方にもお願いしてまいりたいと思っておりますが、今想定しておるその施設においては設置することは、今考えはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私のこれまでの質問に、ミニコンビニ設置が必要ではないとする理由を、根拠をちゃんとお答えいただいております。聞くたびに答弁が変わっています。なぜミニコンビニが必要ではないか、今後、住民、市民にちゃんと説明して、合意形成をしていただきたい。今日改めて、これまでの課長の答弁をおさらいしていただき、その点をお答えいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私どもは、コンビニが必要でないということ saying してはいません。施設の中に、そういうミニコンビニですとかカフェとかの、そういうところと一緒に整備してもらいたいというところは、いろんな事業者からの聞き取りとかをすると無理だということで、決して駅北のあそこのところにコンビニはなくてもいいんだなんていう答弁は、今までもしてきたこともございませんし、先ほどの繰り返しになりますけど、私たちがああいう施設を造ることで、人がいっぱい集まってきて、そういうニーズの中からそういう商売というものが出てくるんだというふうに、先ほどの市長の答弁はそういうことだというふうに私も理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

質問の切り口を変えて伺います。

高齢者から若者まで、独り暮らしでも困らないようなサポート機能が多く集積している都市のインフラとしてのミニコンビニ、ここは市役所へ行かなくとも様々な手続きができて、便利で安全な場所です。

市では、マイナンバーカードの登録を進めていますが、今後ますますマイナンバーカードに情報が集積され、利用されていくときに、近所のミニコンビニでカードが使えることは、被災者や市民が望む公共の一つとは考えられませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

先ほどから市長、それから都市政策課長が申し上げましたとおり、コンビニがそこに必要ないということは、私ども申し上げておりません。子育て支援施設で、人の流れをつくる。また、駅北には、今テレワークオフィスですとかIT企業が来られて、一定の人の流れができてきている。その中で、民間の事業者さんから出店を検討していただきたいというのが、今、市の思いでございます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

それは根拠のない希望ですよ。今もうミニコンビニという形ができてるんですから、そこをなぜ考えないかということ伺っております。

図書コーナーに来た高校生や住民がコピーを取りたいときに、近所にミニコンビニが使えること

は、被災者や市民が望む公共の一つとは考えられませんか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろいろその利用者が使う中で、必要な中においてはコンビニでも間に合うものが結構あるんだと思います。だからといって、行政はそこの中にコンビニを置くことがいいのでしょうか。これは、郊外であったり、また中山間地であったり山間地であるならいざ知らず、商店街の中であるわけでございますので、必要とあらば、やはり我々は、それはリサーチする中で、きちっと経営的な成り立ちの上で、私は入ってきていただけるものだろうと思っております。

そういったときに、我々はじゃあどういう支援をすればいいかということも、また連携していけばいいと思うわけでありますが、今我々が当該施設、そういったものを率先して行政で造るということは、今計画はいたしておりません。私は、入れていきたいということはありませんので、違うところでやはり商行為は行っていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ギャラリーや図書コーナーで時間を過ごす住民や観光客がコーヒーを飲みたいときに、近所のミニコンビニで買えることは、被災者や住民、観光客が望む公共の一つとは考えられませんか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ギャラリー、そういう作品を見ながら、例えばコーヒーを飲む。非常にいいシチュエーションだと思います。それを自販機を置けばいいとか、そういう短絡的に語りたくはないですが、じゃあそれをかなえるために、そこにコンビニエンスストアを置くという、そういうことは、私どもはできないというふうに申しておるものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

町なかというのは、本来、商業集積した便利な場所なんです。そこが不便になるようなまちづくりというのは、本来考えられませんか。市長のお考えを最後に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

その施設、今我々、当該施設について、その中でお茶をしたり少し軽食をお食べになるということも必要なんだろうとっております。そういったことをその施設の中で規制するつもりはございませんし、そういうものができるようにもしていきたいとっておりますが、それを周辺で、もしかしたら手を挙げていただきたいですし、どうしてもないという形になれば、できるまでの間は施設の中で、今、課長が申し上げましたように、自動販売機的なものは設置する可能性はあるかもしれませんが、そこでもって1つのコンビニ、ミニコンビニというような施設は、想定はこれからも入れていくということはないと私は思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

住まう方に寄り添うまちづくりを進めていただきたいとします。

では、質問を変えます。

糸魚川市の地域資源を観光に生かすブラッシュアップは進んだか。NHK「ブラタモリ」以降の観光戦略等について、2回目の質問をいたします。

パネルを準備しましたが、著作権の心配があるという意見も頂きましたので、掲示はしません。

私は、昨年的一般質問でも、NHK「ブラタモリ」を取り上げております。糸魚川の持つ地域特性が、日本の中のすごい場所であるということが全国に伝わりました。映像と音声で、糸魚川という場所が面白く、分かりやすく紹介されたことによります。これが地域資源を観光に生かすブラッシュアップの見本となったと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

私も番組のほうを見させていただきまして、タモリさんのキャラクターの偉大さもあるかもしれませんが、改めて再認識したこと、また分かったことをお伝えしたいなとっております。

1点目は、やはり特徴的な地域資源を本市ならではのストーリーでつなぐこと、2点目は、ポイントを絞って分かりやすく伝えること、3点目は、ターゲットに届く情報発信を強化することが、改めて重要だと認識する機会になったところでありますので、今後、番組内容を参考に、観光資源のPRや地域の連携、取組にブラッシュアップを図ってまいりたいとっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

観光業に携わる方から、テレビで取り上げられても1年は人は来るが、2年たてば来なくなると聞いています。でも、一度強く印象に残ることがあれば、動画配信と分かりやすい解説での誘客を続けていくことは、観光戦略上、必要です。

今回、テレビ放映と併せ、市民や観光客がつくるユーチューブの活用を提案していますが、見て、聞いて、感じて、訪れて、楽しんで、お金を使っただき、地域経済が回る。そうなるためには、糸魚川が好きな人が、糸魚川の好きなところをユーチューブで発信していただくことが大切と考えますが、これを進める方策は市にはありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今現在、当市の公式のユーチューブ発信につきましては、ご存じかと思いますが、ユーチューブ糸魚川チャンネルがございますが、観光面よりも、どちらかといいますと行政情報が多いものと認識しております。

今ほどご提言の糸魚川ファンのユーチューバーから自主的に糸魚川を取り上げてもらうには、行政的な考え方にとらわれず、ユーチューバーの興味を引き、かつ自由な発想で動ける環境を整える必要があると思っておりますことから、調査検討のほうを進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

続けますが、ユーチューブでは、動画の編集やアップのスキルが必要となります。糸魚川の面白さや楽しさを伝えるユーチューブの経費を市民や観光客に直接支払うことは、行政としてはできませんが、観光誘客に結びつくようにSNSでの注目が持続するような仕掛けというものはできないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ユーチューブの映像制作につきまして、行政からの委託や助成につきましては、今ほどご指摘のとおり、社会的責任やモラルなど、様々な面で制約を受けてまいります。ユーチューバーは、自分が面白い、また発信したいと思うものを発信してるというふうに考えておりますので、ご提言の市からの支払いは、なかなか難しいものもあるのではないかなと思っております。

しかし、仕掛けといたしましては、ユーチューバーが興味を引くよう、ユーチューバーの「あな

ただけ、今だけ、ここだけ」のような、ユーチューバー限定のイベントや、また一般の方の投稿におきましては、コンテスト等により、商品や賞与、またユーチューブ作成における講座等、様々なことが考えられますので、引き続き調査検討のほうを進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございます。

最近見た糸魚川の宣伝の動画ですが、糸魚川市観光協会の作ったもので、ヒスイを海岸で拾うシーンと「そうだ！糸魚川へ行こう。」と簡単なコメントが入るだけの15秒のものがありません。私は、とても気に入っているのですが、これが作られた経緯や視聴者からの反応について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

CMの評価、ありがとうございます。

さて、ご質問の「そうだ！糸魚川へ行こう。」のCMは、県石指定のPRのため、また、糸魚川の歓迎ムードをお伝えするために、糸魚川観光協会で作成されたものでございます。県石指定の11月4日以降、11月30日までの約1か月間、県内4社の民法テレビ局で、1日1回、時間帯も朝、昼、夕方、夜と分散させていただきまして、多くの県民の皆様に見ていただけるように放送させていただきました。

CMの反響につきましては、県内の方々から、ヒスイが県の石になったんだねというお声をお聞きしております。つきましては、このCMにつきましてはPR効果はあったものではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私、これも観光資源のブラッシュアップではないかと考えます。あれこれ出てきて、だらだらと解説がつくものよりも、見ていただけるのではないのでしょうか。

そういうことでは、（5）大糸線や谷村美術館も15秒のきれいな動画とキャッチーな短いコメントのものをユーチューブに上げて、多くの人に見ていただける工夫をして、それでツアー会社の商品企画に入れてもらうように働きかけるといったことで活用してはいかがかという提案です。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今回のCMに関しましては、やはり映像作成や放送時間帯を工夫することによりまして、視聴者の目に留まる効果が得られたものと考えております。

議員ご提案のとおり、大糸線や谷村美術館につきましては、視覚的に訴える効果が高い観光資源と考えておりますので、ユーチューブ等、映像の活用を引き続き検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございます。

この機会に、私が今気に入っているユーチューブを紹介したいと思います。

事前に資料を担当課にご覧いただいておりますが、糸魚川市とはカチューシャの唄をご縁とする知音都市交流を行っている信州中野市のユーチューブと、Vチューバー信州なかのさんです。中野市の魅力を全国に発信中とあり、農業で稼ぐまち中野市のアイコンとして様々な場面で活躍するという仕掛けになっています。中野市の農業振興課の職員で、実行委員会をつくり、考えたということで聞いております。この辺りの取組、これからの糸魚川市としてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

当市の知音都市である中野市のVチューバーである信州なかのさんの取組は、昨年度から開始され、とても興味深く、注視してるところでございます。全国的にもバーチャルキャラクター等が活躍しておりますが、当市で考えてみれば、キャラクターが増えるのは、なかなか分かりづらくなるものと私は考えておまして、やはり当市の糸魚川ジオパークのマスコットキャラクター、ジオまるとぬーなを活用し、ユーチューブや仮想空間であるメタバース等、様々な場面で活躍できるよう調査検討のほうをしてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

メタバースの空間で、こういったキャラがつながっていけるといいですね。そのときに中野市のキャラと糸魚川のキャラとどっちが好かれるかというところは、また今後のお楽しみということでしょうか。頑張っていたきたいと思っております。

時間の関係で、ヒスイの意味を観光に結びつけて考える。また、ブランドとしての価値を高める

質問を準備していましたが、それはまた、ヒスイの文化的な価値の発信ということで、改めて質問の機会を持ちたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を40分といたします。

〈午前11時33分 休憩〉

〈午前11時40分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、フレイル予防の推進と健康ポイント制度の導入について。

「フレイル」とは、年齢を重ねて筋力などが低下し、心身が弱ってきた状態を言い、将来要介護状態になる可能性が高い状態を言います。

フレイルは健康状態と要介護状態の間に位置しており、早い時期からフレイル予防に取り組むことで生活機能の低下を遅らせ、健康長寿の実現に近づきます。

フレイル予防は継続性が重要であり、そのためには市民が支え合い、一緒に予防ができ、健康意識を向上させていく仕組みが必要です。

そのきっかけの一つが健康ポイント制度の導入だと考えますが、第3次糸魚川市総合計画の中で「健康的な生活習慣の定着と積極的なフレイル予防のため、運動習慣や健康意識の醸成のためのインセンティブとして、地域通貨制度と連動した健康ポイント制度を導入します」と記されており、今後の市の取組に期待をしています。

以下、伺います。

- (1) 今年度のフレイル予防事業の実施状況について。
- (2) フレイルチェック後のデータは、どのように活用されていますか。
- (3) フレイル予防事業を進めていく中で、課題は何だと捉えていますか。
- (4) 定期的なフレイルチェック、フレイル予防の周知啓発活動を加速させるため、フレイルサポーターを設置し、取組を進めるお考えはありますか。